

講義ユニット名	細菌学		所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学 (内線 5157)	
		メール	tsaka@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	すがい もとゆき 菅井 基行	所属	細菌学 (内線 5635)	
		メール	sugai@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。実験を中心とした実習を行う。			
概要	細菌は感染症をおこす主要な病原微生物である。細菌は宿主に備わる防御機構を巧妙にかいくぐり、時として重篤な感染症をひきおこす。歴史的に人類の脅威であったものが抗菌化学療法薬の誕生で制圧されたかにみえた。しかし、耐性菌の出現とともに細菌感染症は依然として公衆衛生上の重要な問題である。本ユニットの講義実習では、細菌の性質、増殖機構を理解し、さらに感染症、その予防と治療についての基礎知識を習得する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。</p> <p>細菌の感染経路を分類し、説明できる。</p> <p>細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。</p> <p>外毒素と内毒素について説明できる。</p> <p>Gram (グラム) 陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram (グラム) 陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram (グラム) 陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram (グラム) 陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram (グラム) 陰性スピリillum属病原菌 (Helicobacter pylori) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>抗酸菌 (結核菌、非結核性<非定型>抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル<ムコール>) の微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>菌交代現象・菌交代症を概説できる。</p> <p>日和見感染症<opportunistic infection>を説明できる。</p> <p>主な感染症の原因となる病原体を分類できる。</p> <p>細菌学的診断と血清学的診断を概説できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	講義については、出席は試験の受験要件に含めない。実習については全ての出席を試験の受験要件とする。			
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用) 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとしている。			
評価法	MCQ形式と記述形式の併用により試験を行う (配点はMCQ形式が90点以上) 本試験における合格基準は60点とする。			
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂 東匡伸・小熊恵二編 (2017)</p> <p>戸田新細菌学 第34版 南山堂 吉田眞一・柳雄介・吉開泰信編 (2013)</p> <p>レビンソン微生物学・免疫学 原書第11版 丸善出版 吉開泰信・西山幸廣監訳 (2012)</p> <p>標準微生物学 第12版 医学書院 平松啓一・中込治・神谷茂編 (2015)</p> <p>病原微生物学 基礎と臨床 初版 東京化学同人 荒川宣親、神谷茂、柳雄介編 (2014)</p>			